

「わたしはこの目であなたの救いを見たから」

ルカによる福音書 2 章 22 - 32 章

森島 牧人 牧師

今日からアドベント（待降節）に入りました。教会の暦では、アドベント第一主日の今日から新しい一年が始まることになってます。今日は、そのアドベントの意義・意味を考えたいと思います。「アドベント」は英語ですが、これはラテン語の「Adventus」から来ていて、旧約に於いて約束されていた待望の救い主・メシアである主イエス・キリストの誕生を迎えるための備えをする期間ということになっています。この習慣は、五世紀ごろには定着していたと思われます。

さて、今日の聖書に「エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み・・・」とありますが、当時のイスラエルにはシメオンのように救い主・メシアを待ち望む預言者や人々がたくさんいました。御子イエスを抱くことが出来たシメオンは聖霊のお告げどおり、「わたしはこの目であなたの救いを見たから」と言って世を去るのですが、イスラエルの歴史の記述でもある聖書を読んで行くと、救い主イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスを待ち望み、その備えをするアドベントが教会の中に根付いて行ったことがよく分かります。

さらにこの主イエス・キリストの来臨を待つという信仰はイスラエルだけではなく世界中に広がり、各々の国の教会がそれを受け止め、人々は一つ一つクリスマスの準備しながらこの期間を過ごすことになって行きました。窓の外に鉢植えのお花を飾るなどヨーロッパの国々でも迎え方はさまざまですが、どの国でも家族みんなで温かな心で祈りながらその日を待つのです。

このように、アドベントの第一義は「到来」ということですが、アドベントにはもう一つ重要な意義があります。それはマタイ 24 章にあるように、神の御子主イエス・キリストが世の終わりに再び来られる、「再臨」ということです。私たちの罪の贖いのために十字架にかかって死に、復活して弟子たちに現れ、天に帰られ、今は天で私たちのことを憶え、支えてくださっている主イエスが、この世の終わりの日に、私たちを神の国に連れて行くためにもう一度地上に来られる。罪人であって本来なら滅びるはずの私たちが主イエスを信ずる、すなわち＜キリストを着る＞ことによって、この最後の日に＜神の子＞として神に受け入れていただくのです。アドベントの二つ目の意義はこの「再臨」です。

従って私たちは、このアドベントの期間をただ単に喜んでいるのではなく、聖書が語るように、私たちのために十字架にかかり復活して私たちを神と共に生きる者としてくださったお方が、私たちのところへ＜二度来られる＞ということ、深く心に留めなければなりません。これはダブルステージと言えます。

信仰もまたダブルステージです。死ぬべき私たちのためにこの世に降り、使命を全うして天に帰られた主イエスが、最後にもう一度来られるのです。聖書にはこのことを記したところがいくつかあります。パウロの「マラナ・タ（主よ、来てください）」（Ⅰコリント 16：22）、黙示録の「以上すべてを証する方が、言われる。『然り、わたしはすぐに来る。』アーメン、主イエスよ、来てください。主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように。」（黙示録 22：20）などです。聖書がこの黙示録に記している、＜世の終わりに主イエスがもう一度私たちのところへ来てください、御言葉をくださり、すべてのものを祝福してくださる＞というものが聖書 66 巻の最後の言葉であり、これこそがまさにアドベントの意味するものであり意義なのです。その意義に思いを致しつつ、心を開いてご降誕をお迎えしましょう。

（説教要約 羽入田悦子）